

地域包括ケアに携わる多職種合同研修会

～ 「顔の見える関係」から「多職種協働」、そして「チーム北空知」へ ～ 「第1回ケア・カフェきたそらち～お薬の話～」開催報告

- ・日 時 令和3年9月17日（金）18:00～20:00
- ・開催方法 オンライン（ZOOM）
- ・主 催 北空知地域医療介護確保推進協議会
- ・参加者 42名（事前申込者42名 欠席1名、当日受付1名）
（市町別：深川市23名、妹背牛町8名、秩父別町2名、北竜町7名、沼田町2名）
（職種別：医師1名、歯科医師2名、薬剤師3名、看護職8名、介護支援専門員5名、社会福祉士2名、保健師6名、リハビリ職1名、歯科衛生士2名、介護福祉士4名、ヘルパー1名、事務職5名、その他2名）

オンライン

- ・目 的 北空知における地域包括ケアシステムの構築を目指して、地域の保健・医療・介護・福祉の関係機関・施設・事業所等において、患者や利用者、地域住民の支援に携わる多職種の関係職員が一堂に会することが困難な状況にあっても、互いの役割を確認・共有し、切れ目のない支援・サービスが提供される多職種連携の関係作りを構築する。



BGMとともにカフェ風の背景動画を流してみました

事務局・参加者も不慣れなため登録漏れなどもありましたが、事前登録制に参加者の皆さんにご協力いただき、スムーズに人数や所属等の確認ができました。

参加者の氏名の変更も画面共有でスライドを流し、予めお願いしました（下）



前回はこのようなお菓子の差し入れがありましたが、今回はオンラインということで各自にご用意いただきました...



総合司会は多職種合同
研修企画小部会の
森田小部会長

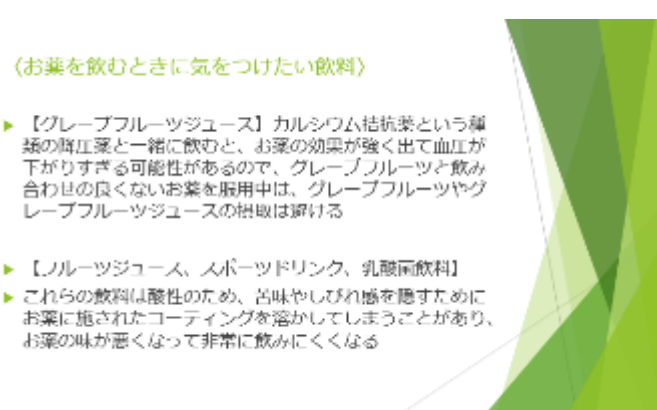
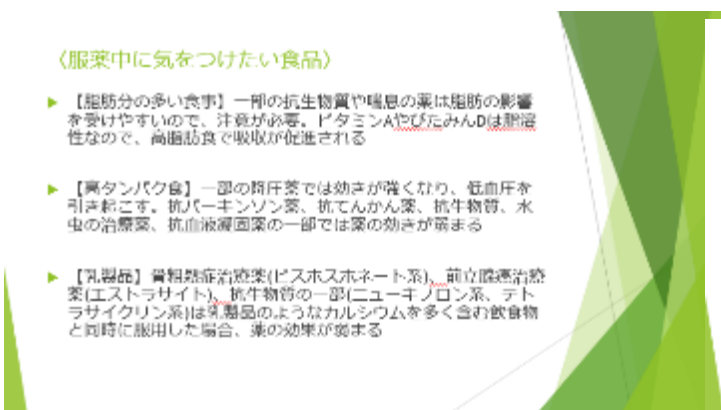
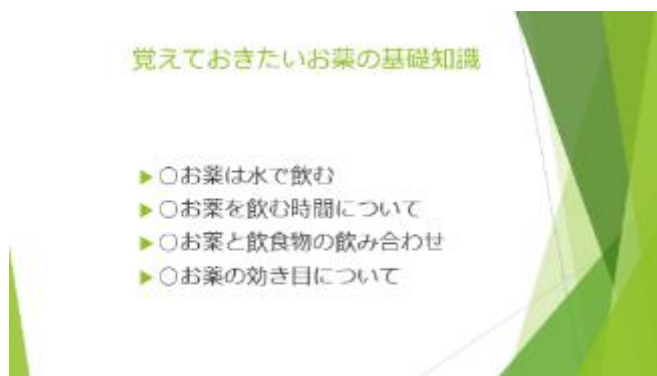


開会挨拶は、医療介護連携支援センター運営会議座長の米澤さんです。



今回は北海道薬剤師会北空知支部深川部会 中澤さんが「お薬の話」について話題提供

- ・第1回研修会は、「薬」をテーマに北空知地域医療介護確保推進協議会として初めてオンラインで開催しました（トライアル開催を除く）。
- ・話題提供は、北海道薬剤師会北空知支部深川部会から、深川市立病院の薬剤師である、中澤さんから「お薬の話」と題してお話をいただきました。
- ・今回は、様々な形態のある薬の中から、内服薬に絞り、薬の効果を最大限に発揮させるにはどうしたらよいかを事例を交えて分かりやすく説明がありました。
- ・例えば水や白湯で飲むことは誰もが一般的にそうするべきと思いますが、他の飲料はなぜだめなのか、具体的な名称を挙げて理由の説明がありました。
- ・食後に服用することの最大の理由は「飲み忘れ防止」であることや、様々な食べ物との食べ合わせがあること、服薬中の嗜好品にも触れ、それぞれの注意を促しました。
- ・薬を飲む上で最も大事なことが「飲み忘れない」ことで、副作用を防止し病気を早期に治癒するため、自己判断の服薬をしないことや、服薬状況を主治医に正確に伝えることの大切さを説きました。






ケア・カフェの進め方

- 飲み物を持ってテーブルに着席

Chat 1 : テーマについて自由に話し合う。
テーブルホストを残して席を移動。



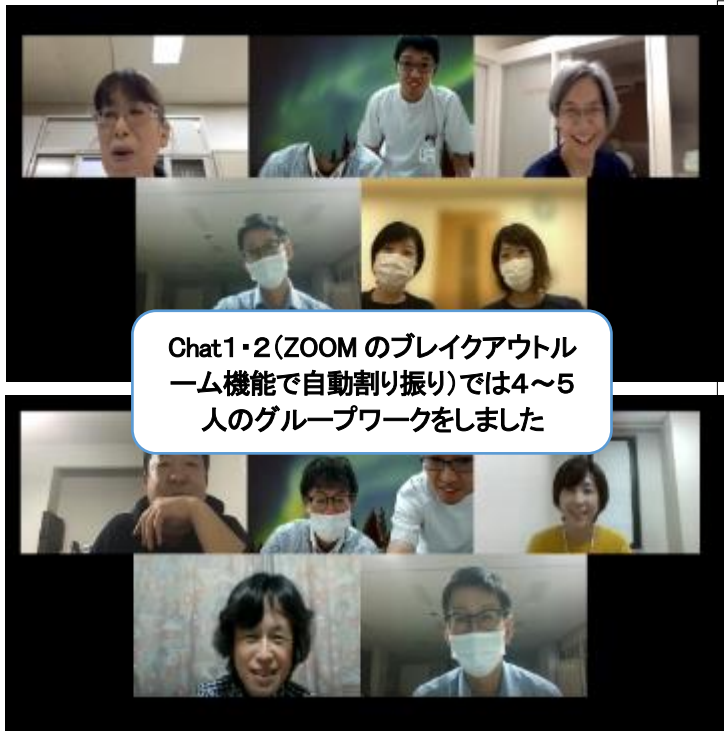

今回は、永洞さん(上)がカフェマスターを務め、サブマスターは無しとしました。孤軍奮闘でしたが、楽しい司会で盛り上げてくれました



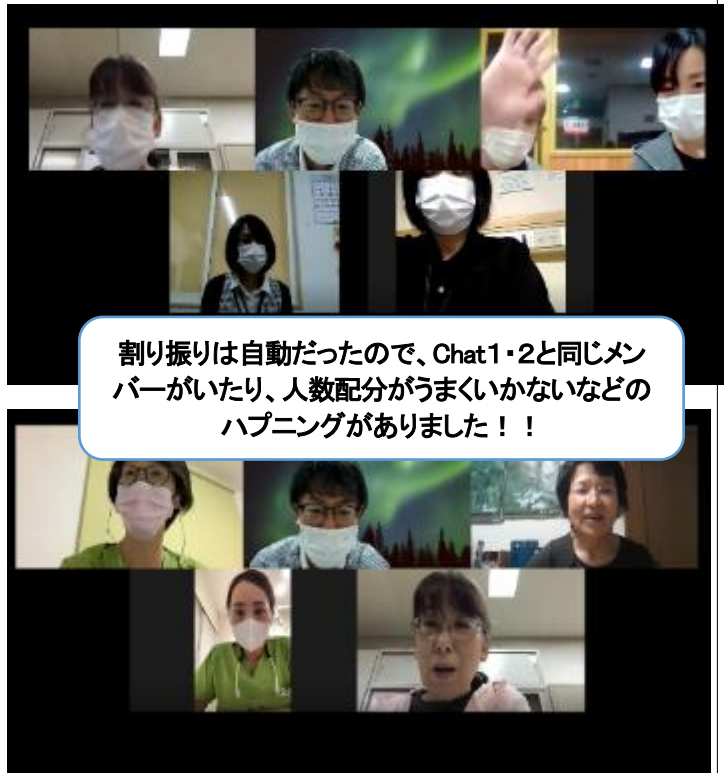
今回は、定岡歯科から歯科医や歯科助手、ひいらぎ荘や北竜町社会福祉協議会などから初参加される方が 8 名いました



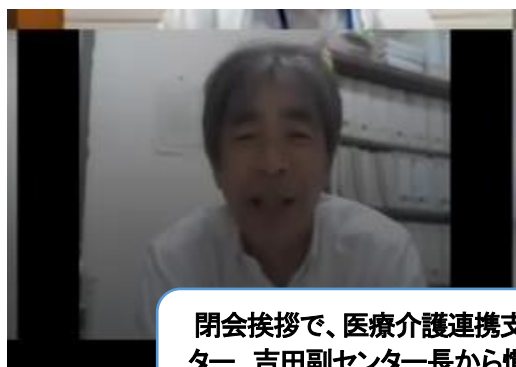
- ### アンケートから
- ・自分の職場以外の状況を聞くことができるのでとても良かったです。
 - ・楽しい意見やびっくりする話があり大変有意義でした。
 - ・いつも思っているのと違う角度からの困りごとがあったのが参考になった。
 - ・普段から仕事で関わっている方々とざくばらんに話げできた。
 - ・自分の知らない情報が知れた。
 - ・普段、なかなか話す機会がない方の話を聞けるので、有意義であり、楽しかったです。
 - ・高齢者の現状や課題がわかりました。
 - ・普段から薬のことで気になっていたことが共有できた。薬以外の話もでき情報交換できた。
 - ・お薬手帳や薬について、人それぞれのお話を聞けた。
 - ・オンラインでも生の声が聞けたこと。
 - ・初めてのオンラインでしたが思っていたよりグループワークはスムーズだったと思います。
 - ・久しぶりに、顔を見て話が出来て楽しかったです。
 - ・グループワーク→緊張もあり、タイムラグもあり発言のタイミングが難しかった。
 - ・緊張もありましたが、普段聞く事のできないお話を聞けて今後の仕事に役立てたいと思いました。



Chat1・2(ZOOMのブレイクアウトルーム機能で自動割り振り)では4~5人のグループワークをしました



割り振りは自動だったので、Chat1・2と同じメンバーがいたり、人数配分がうまくいかないなどのハプニングがありました!!



閉会挨拶で、医療介護連携支援センター 吉田副センター長から慣れない中の参加にお礼がありました

～グループワークから～

- ・自己紹介から始まるグループワークでは、早く自由に旅行や温泉に行きたい、実家に帰りたいなどの声がありました。
- ・薬の量が多いのも体に負担となるが、逆に減らすことに不安を覚える方がいる。
- ・飲み忘れが多く沢山溜め込んでいる方がいる（衣装ケース2箱!）。プライドが高く見せてくれない方がいる。医師に言いづらい。他人にあげてしまう方もいる。高齢者だけでなく現役世代でも飲み忘れはある。
- ・地震で停電になったとき（ブラックアウト）、残薬があって助かったこともあった。
- ・お薬手帳のカバーにケアマネの名刺が挟んであり、薬局から問い合わせがあって取り組みの効果が出た事例があった。お薬手帳もかなり普及している。
- ・薬を食後に服用するのは飲み忘れ防止が大きな理由ということや、食後は30分後ということに驚いたが、高齢者施設では管理が難しいことも。
- ・薬をシートから外して管理している方がいたが、飲み忘れるよりは良いとのこと。
- ・高齢者世帯ではお互いに服薬管理がしきれない。
- ・認知症高齢者の服薬管理の難しさ。プライドが高いことや易怒性、助言を聞き入れないなど。
- ・栄養剤やサプリメントとの飲み合わせはどうか。過剰摂取にならないのか？
- ・一包化すると便利だが、何の薬を飲んでいるかわからなくなるのでは。そもそも効果を理解していない方がいる。
- ・介護サービスが入らない土日などの服薬管理が困る。サービス上は限界。
- ・最近では週1回や月1回という薬がある。飲み忘れのリスクもあるが、管理はしやすい。

～参加者の声から～

- ・集合形式で開催できるといいですね。ありがとうございました。
- ・いつも楽しい研修会をありがとうございます。また参加します。
- ・病気のことや歯医者以外での口腔ケアについて聞きたい。
- ・最新の生活習慣病の治療法について、認知症についてなどを聞きたい
- ・オンラインは開催準備が少なく気軽に開催できると思うので、複数回開催ください。